

■ 学校教育目標

- ① 高い進学目標を掲げ、一般入試に対応できる学力を身につけながら、個に応じた進路実現ができる学校を目指す。
- ② 学習活動と課外活動をともに重視した高校生活と、それを支える基本的な生活習慣と豊かな人間性の確立を目指す。(文武両道と生活指導の充実)
- ③ 地域との交流・連携事業を積極的に推進し、地域と協働する高校を目指す。

■ 長期的教育目標

- ① 豊かな人間性を養い、知・徳・体の調和のとれた成長と主体的に社会に参画できる生徒の育成を目指す。
- ② 自主・自発的な学習態度を育成し、学力の充実とともに高い進路目標の実現を目指す。
- ③ 特別活動を充実し、文武両道による心身の練磨を目指す。
- ④ 地域に開かれ、地域と連携しながら、地域から愛され信頼される学校を目指す。

■ 本年度の重点目標

- ① 「自主」「意欲」「創造」の人となるために必要な能力や態度をきめ細やかに育むことを通して、自己の在り方生き方を考えさせる学校づくりに努める。
- ② 「いじめのない学校づくり宣言」の精神や活動を大切にして、いじめや体罰を許さない学校づくりに努める。
- ③ 学習や諸活動等で生徒が互いに話し合い、考え、行動しようとする態度を大切にして、主体的で活力のある学校づくりに努める。
- ④ 家庭や地域社会と連携・協働する事業に取り組むことを通して、地域に貢献しながら共に育つ学校づくりに努める。

A:十分 B:おおむねよい C:不十分

	本年度の重点目標	目標達成のための評価の観点	実施した具体的取り組み	観点別評価	○成果 ◆今後の課題 ■改善策・向上策	担当分掌
①	「自主」「意欲」「創造」の人となるために必要な能力や態度をきめ細やかに育むことを通して、自己の在り方生き方を考えさせる学校づくりに努める。	I	生涯に渡って学び続けるために基盤となる基礎学力の習得やそれらを活用する力の育成を目指した授業が実践できたか。	B	○「学びの基礎診断」の結果を受け、個々の生徒の学力定着度により適した課題を出すことができた。 ◆「学びの基礎診断」の分析結果を、各学年各教科の指導方針にさらに活用していく。	学習指導
		II	主体的に意思決定を行う場面を繰り返し仕組むことで、自分らしく生きていくために必要な能力や態度を育むことができたか。	B	○投稿に刺激を受け、自ら投稿する生徒もいた。 ◆SHRだけでは時間が足りない。LHRは他に時間が入っていて十分に時間がとれない。 ■進路通信を題材にしてホームルームなどで議論する機会がほしい。	進路指導
		III	あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会の変化を乗り越えるために必要な学習を具現化することができたか。	B	○「学びの指標」の学校独自質問を設定して2回実施することができた。生徒に振り返りを促し、担任の面談の資料とすることができた。 ◆学校生活における満足感や自己肯定感の向上に資するよう、協働して活動する学習をさらに充実させていく必要がある。	学習指導

	本年度の重点目標	目標達成のための評価の観点	実施した具体的取り組み	観点別評価	○成果 ◆今後の課題 ■改善策・向上策	主分掌	
②	「いじめのない学校づくり宣言」の精神や活動を大切にして、いじめや体罰を許さない学校づくりに努める。	I	個人面接指導やアンケートを活用しつつ、日頃から教員間の連絡を密にして生徒の状況を丁寧に把握することができたか。	担任による面接指導、セルフチェックリスト（毎月）、いじめアンケート（9月以降毎月）を実施し、生徒の状況把握に努めた。心配な生徒については、学年・係・担任を中心として対応した。	B	◆今後も多様な生徒に対応するため、アンテナを高くして生徒状況を把握し、職員間で情報をしっかりと共有し、状況に応じて対応していく。	生活指導 特支Co.
		II	職員は体罰を防ぐために、共感的理解を持って支え合える同僚性を育むことができたか。	全校人権学習について、クラス別にわかれて実施することができた。	A	◆■全校職員に対する人権研修の実施も考えていきたい。	人権教育
		III	生徒手帳や内規をもとにした共通の目線で生徒の生活を整え、指導が必要となったときは進んで係・担当と協働して早急な対応にあたることができたか。	全職員による登下校見守り指導、服装頭髪検査・セルフチェックリスト（毎月）を実施し、状況把握と共通の目線で生徒の生活安定に努めた。指導が必要な場合は、係・担当と協働して対応した。	B	◆今後も全職員が共通目線で生徒への声かけ、指導に努めるとともに、指導が必要ときに速やかに対応ができるよう、規定の確認や、係・担当の連携を更に深めたい。	生活指導
③	学習や諸活動等で生徒が互いに話し合い、考え、行動しようとする態度を大切にして、主体的で活力のある学校づくりに努める。	I	授業や諸活動において、すべての基盤となる基本的な知識・技能を獲得させる教材や学んだ知識を活用して主体的に考えさせる教材の研究に努めることができたか。	観点別評価の導入に伴い、基本的な知識・技能の定着や、主体的に考え判断し表現していく力の向上を重視して、授業や考査の作問を行った。	B	○観点別評価に関する研修会に参加し、他校と評価方法や課題について意見交換することができた。 ◆授業や考査問題について、他教科との情報共有や学び合いをする機会をとるようにしたい。	学習指導
		II	ICT機器を用いたり、生徒が互いに議論する場面を設定したりするなど、生徒の興味関心を高める工夫をすることができたか。	Google Classroom を用いて課題配信やパフォーマンステストを行った。また、スタディサプリを活用して個々の学力定着度に応じた課題を配信した。	B	◆ICTを使った課題配信は手軽で効率的である一方、生徒側に過度な負担がかかる場合もある。できるだけ教科間ですり合わせる必要がある。	学習指導 情報化推進
④	家庭や地域社会と連携・協働する事業に取り組むことを通して、地域に貢献しながら共に育つ学校づくりに努める。	I	生徒が企画する地域連携事業や地域から依頼される事業を支援することを通して、地域から応援される学校づくりを推進することができたか。	・ガーデンプロジェクト苗配布会協力 ・しもすわ未来議会参加 ・三角八丁ボランティア協力 ・岡谷諏訪人権の集い司会協力 ・第40回下諏訪町幼保小中特高健全育成集会参加	B	○昨年度から比較すると町からの事業への協力依頼も増え、コロナ禍以前に徐々に戻つつある。 ◆役員生徒に行事の意義を理解させた上でより良い内容のものを作っていくこと、地域連携事業を学校側で企画して行事を行っていくこと。	生徒会
		II	学校ホームページ、向陽坂通信、公開授業などを通して、学校の取り組みや日々の諸活動を家庭・地域に発信することができたか。	ホームページではこまめに「向陽WEB日記」を更新し、学校紹介のページを新設するなどのとりくみをおこなった。向陽坂通信も昨年度と同様に4号発行した。また、学校ポスターを制作して中学校・公共図書館等へ配布するなどのとりくみをおこなった。	A	○中学校訪問などでは、情報発信のとりくみを評価する声をもらうことができた。 ◆一方で、生徒募集においては広報活動が志願者数確保に直結していない面が見うけられた。 ■引き続きこまめな情報発信に努めると共に、新たな方策も研究していきたい。	教務
		III	家庭との一層の連携やPTA活動の充実を願って、PTA活動に参加することができたか。	コロナウィルスの感染状況により、昨年度に引き続き中止せざるをえない行事もあったが、環境整備作業やマラソン大会補助、役員選出会議など、直接参加いただくPTA活動を実施することができた。	B	○環境整備作業には、保護者、生徒、職員併せて100名以上が参加し、快適な学校生活を送るために作業を行った。 ◆コロナ禍だけでなく、保護者の皆さんがさらにPTA活動に気軽に参加できる行事の検討を行っていきたい。	PTA